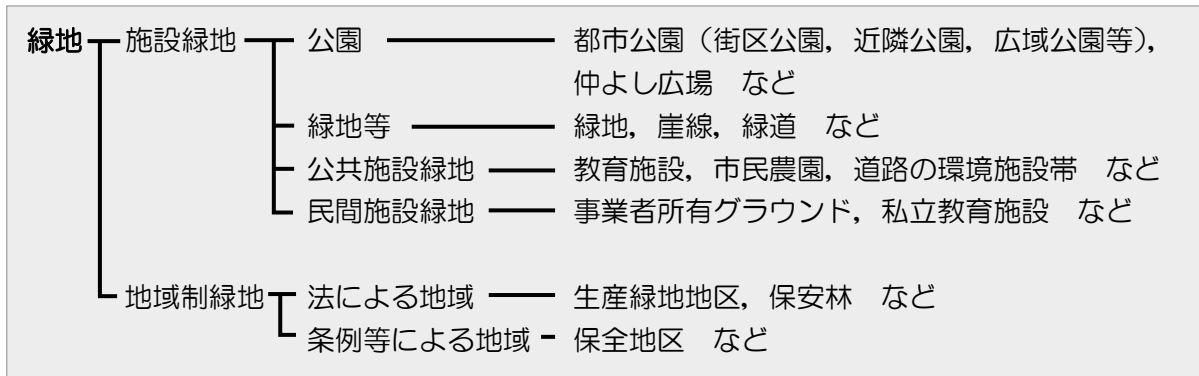


第4章 調布市の緑の現状と課題

4-1 対象とする緑

緑の基本計画では、都市公園や公共施設・民間施設緑地等の緑の施設に該当するものを「施設緑地」、緑の保全や緑化に関する法律・条例等の制度を適用している地域の緑を「地域制緑地」といい、それらを総称する用語として「緑地」を用いています。

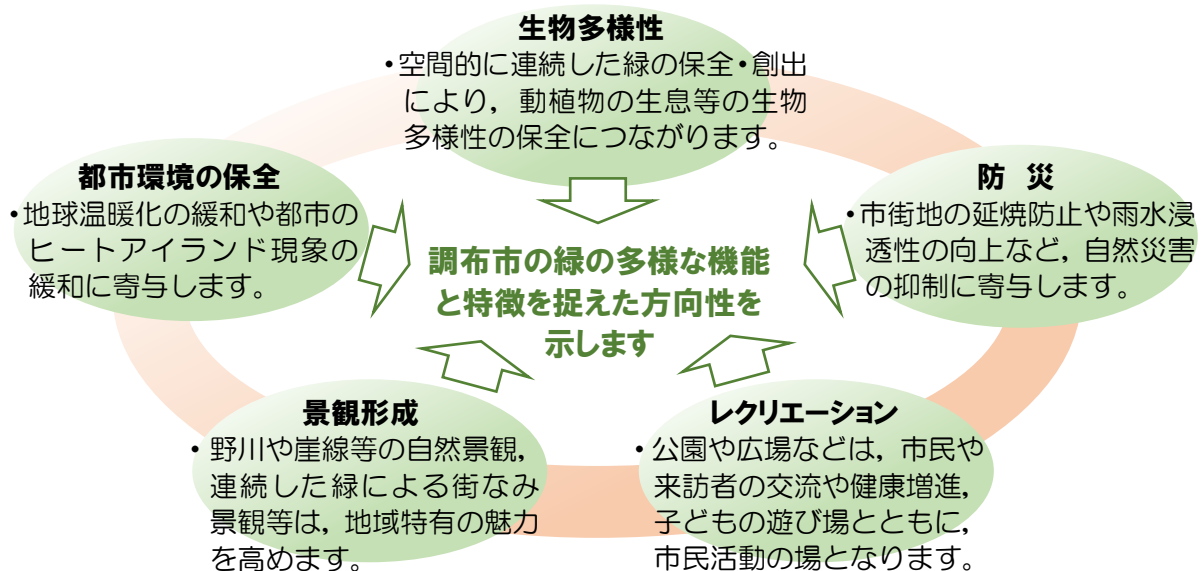


新版 緑の基本計画ハンドブック（社）日本公園緑地協会 をもとに作成

4-2 緑の機能

緑は、生物多様性、都市環境の保全、防災、景観形成、レクリエーションなどの多様な機能を有しており、良好な都市環境を形成する重要な役割を担っています。

本計画では、総合計画に即した個別計画として、調布市全体でめざすまちづくりの実現に向けて、本市の緑の特徴を捉え、各分野と連携しながら、緑の諸機能を活かした方向性を示すものとします。なお、緑にもたせるべき基本的な機能は普遍的なものですが、昨今の自然災害の発生状況を踏まえ、防災機能及び都市環境の保全機能の持つ役割が増しています。

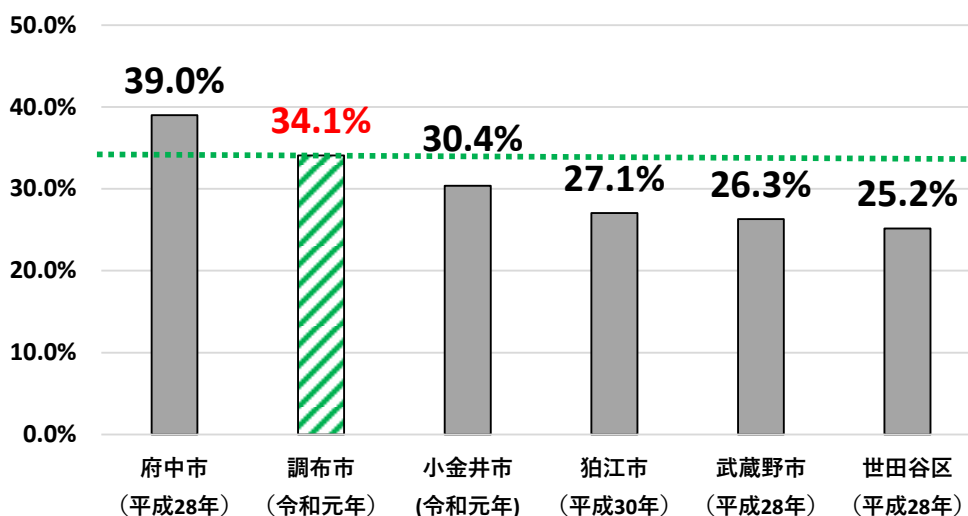


4-3 緑の現況

都心に近い緑豊かな住宅街

本市は都心に近いまちでありながらも、緑豊かな環境で、近隣市区と比べて比較的緑が残されています。市民の市内の緑に対しての満足度も、約7割が肯定的な評価となっています。

近隣市区のみどり率

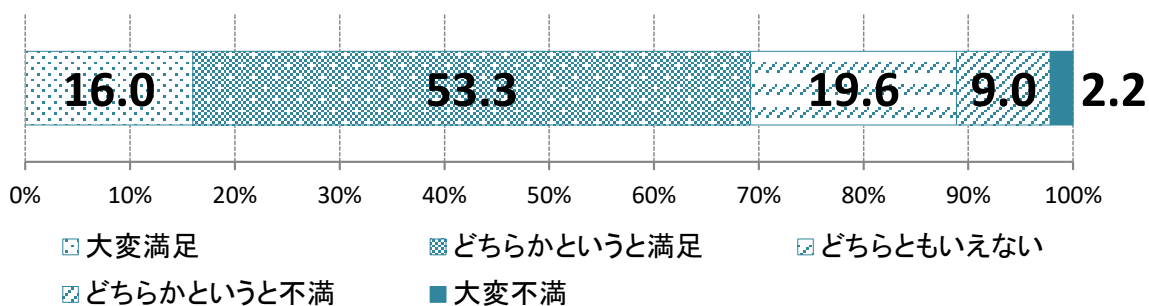


※括弧内は調査年次を表す

※狛江市は多摩川緑地公園が供用開始部分のみの場合

※三鷹市、稲城市では、例示的な調査項目としていない

調布市の緑についての全般的な満足度



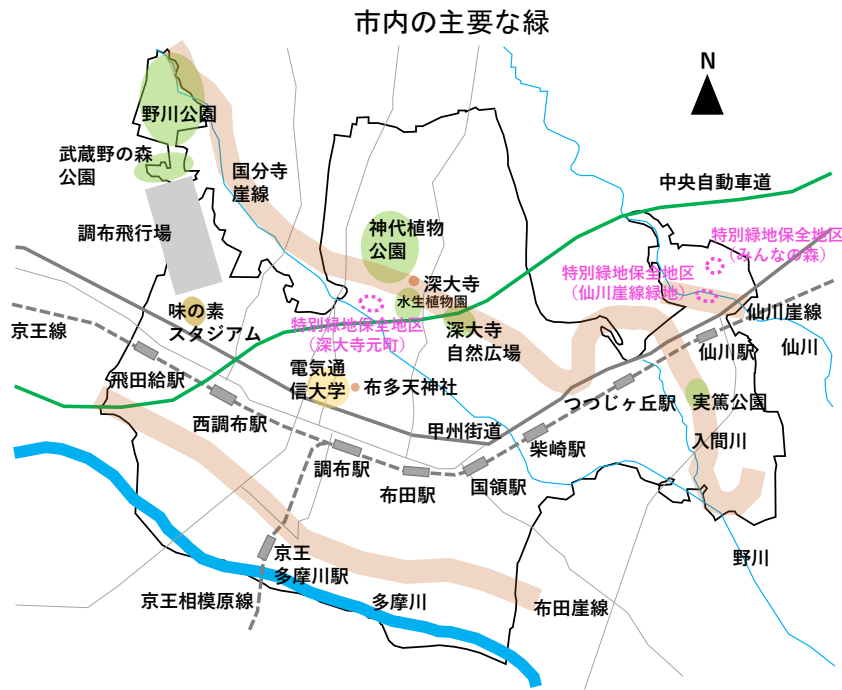
N=1,014

出典：調布市の緑に関する市民アンケート調査結果（令和元年度）

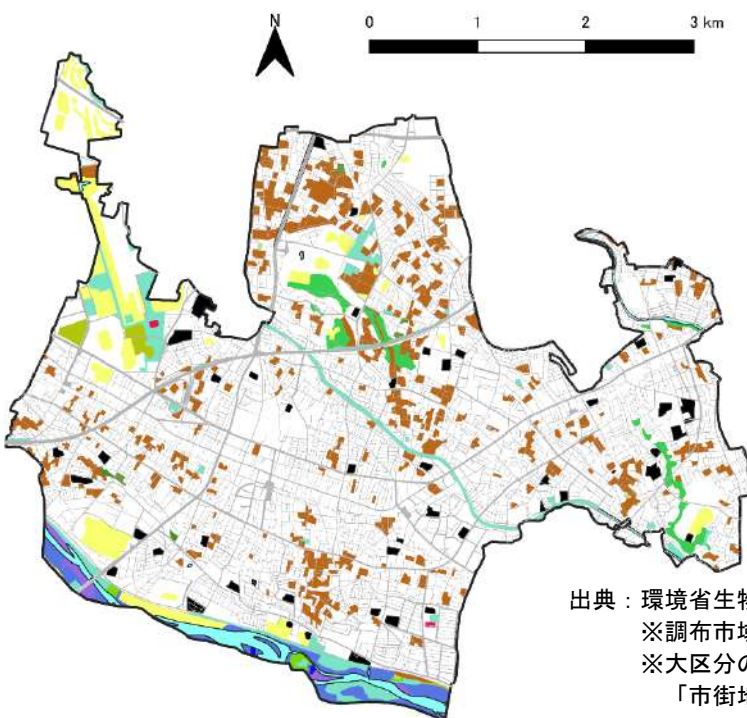
多様な自然環境

多摩川や野川をはじめとする河川や国分寺崖線などの地形に由来する緑のほか、都立公園を中心とした規模の大きな公園や河川敷周辺の緑地や運動施設等があり、こうした多様な自然環境が緑の骨格となっています。

植生の特徴は、耕作地が市全域に広がるほか、ゴルフ場・芝地が調布飛行場・東京スタジアム（味の素スタジアム）周辺及び多摩川沿いに多くなっています。多摩川や野川沿いには背の低い草本群落が分布しています。崖線には落葉樹林が分布し、生態系として貴重な緑になっており、動植物の重要種が確認されています。



植生図



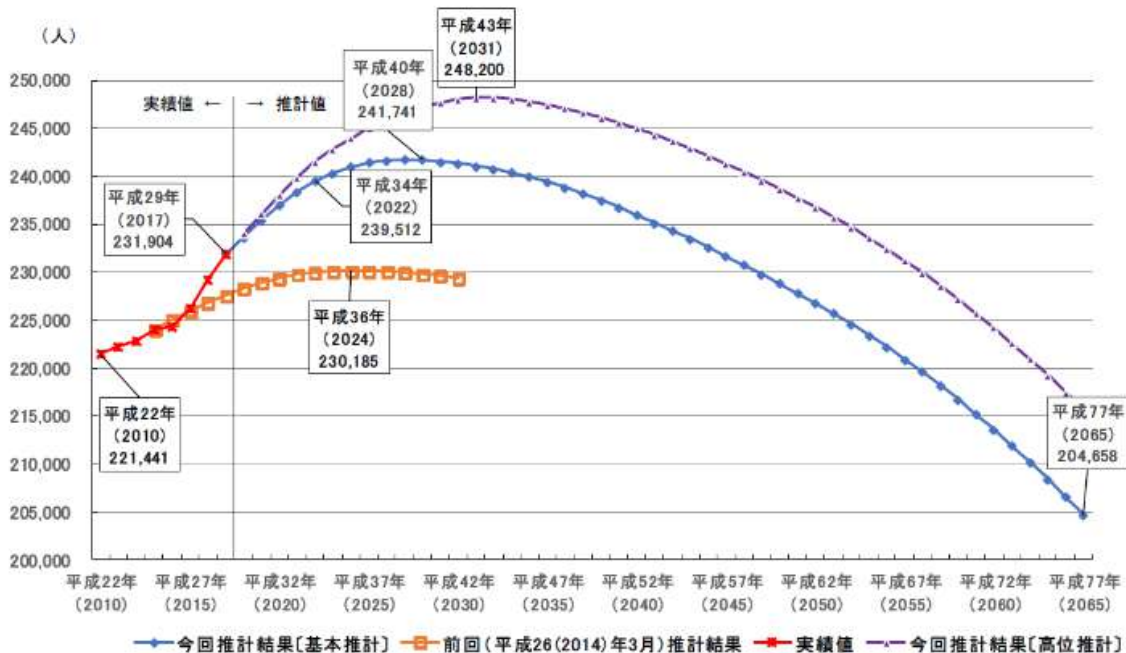
出典：環境省生物多様性センター 第6-7回植生調査（25,000分の1）
 ※調布市域は平成21年度に実施
 ※大区分のデータをもとに現況に合わせて加工。
 「市街地」は凡例から除いている。

人口増加と活発な市民活動

調布市の将来人口は今後も増加を続け、2028年に、基準年である平成29（2017）年より9,837人多い241,741人でピークを迎えると推計されています。その後は人口減少に転じ、2040年頃の人口は約23.5万人、2060年頃の人口は約21.2万人と見込まれています。

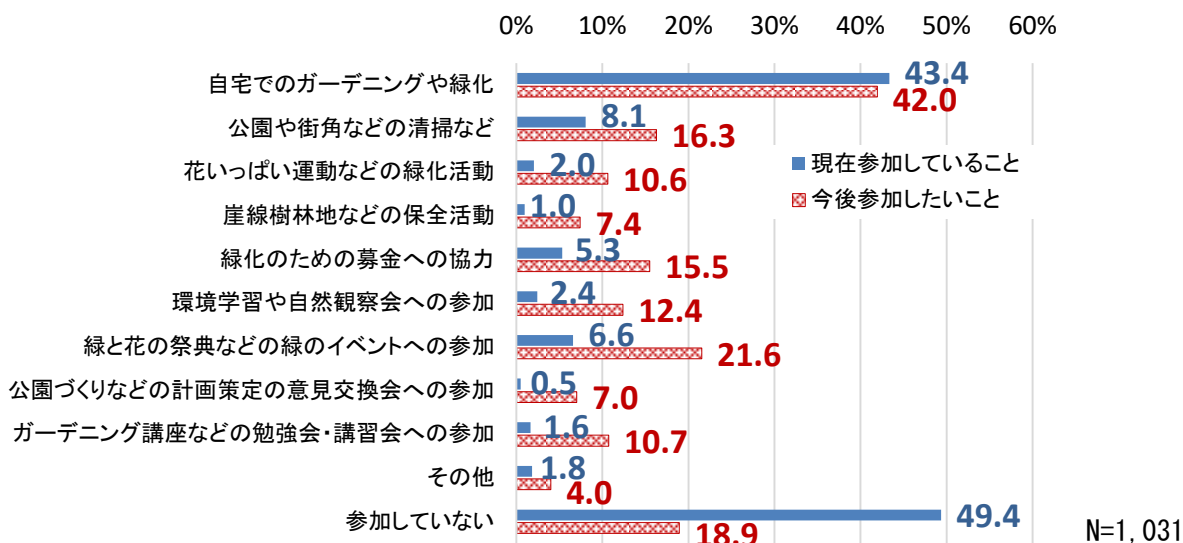
一方で、市民・事業者・行政の協働による緑化活動は活発で、市民アンケート結果では、緑を守り育てていくために現在参加している活動として「自宅でのガーデニングや緑化」を挙げる人が4割を超えています。

将来人口推計（基本推計）



出典：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

緑に関連した活動へ参加状況と意向



出典：調布市の緑に関する市民アンケート調査結果（令和元年度）

緑の減少

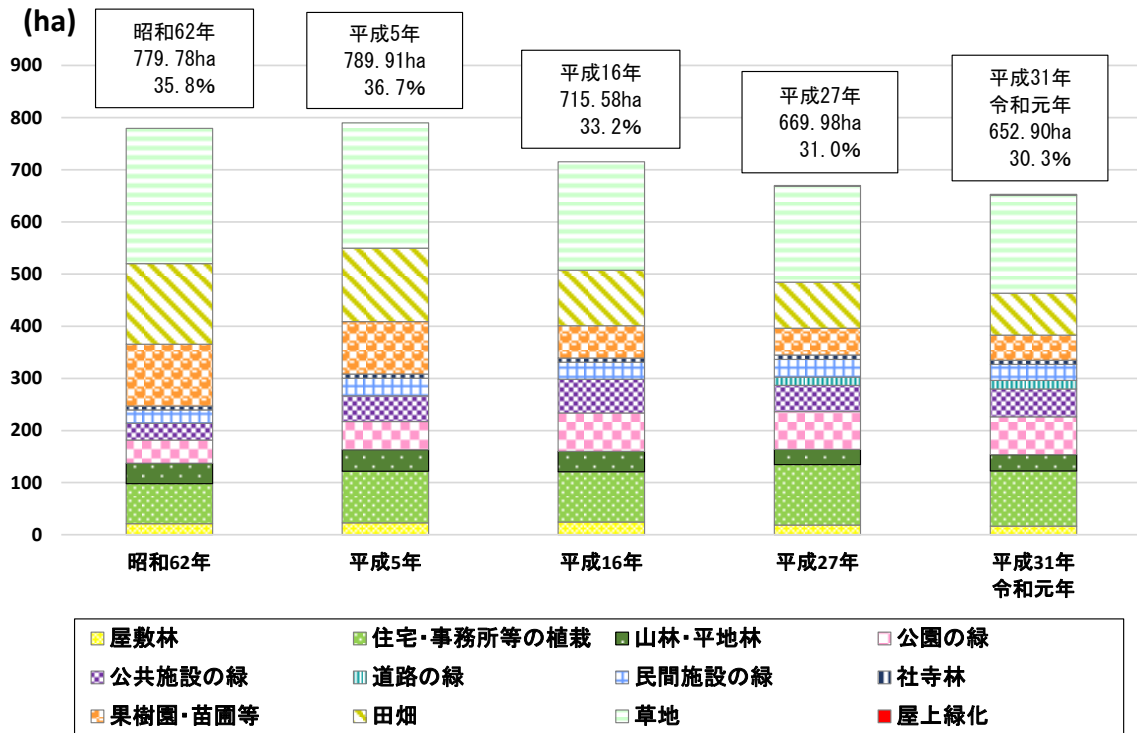
市内の緑は、都市農地や住宅・事務所等の植栽、民間施設の緑といった民有地の緑が主に減少しています。とくに減少が著しい農地は市の全域に分布しています。

緑被率及びみどり率の推移

区 分	平成16年		平成22年		平成27年		平成31年 令和元年		
	面積(ha)	市域に 対する 構成比(%)	面積(ha)	市域に 対する 構成比(%)	面積(ha)	市域に 対する 構成比(%)	面積(ha)	市域に 対する 構成比(%)	
立体的 みどり	屋敷林	24.27	1.1%	19.68	0.9%	18.50	0.9%	16.69	0.8%
	住宅・事務所等の植栽	96.32	4.5%	113.46	5.3%	116.20	5.4%	105.88	4.9%
	山林・平地林	39.19	1.8%	31.37	1.5%	29.07	1.3%	31.20	1.4%
	公園の緑	73.65	3.4%	69.58	3.2%	72.55	3.4%	72.40	3.4%
	公共施設の緑	48.13	3.0%	56.83	2.6%	50.08	2.3%	53.58	2.5%
	道路の緑	16.85	-	16.31	0.8%	16.06	0.7%	16.12	0.7%
	民間施設の緑	32.59	1.5%	33.19	1.5%	34.02	1.6%	31.10	1.4%
	社寺林	7.73	0.4%	8.00	0.4%	8.09	0.4%	7.86	0.4%
	果樹園・苗圃等	62.16	2.9%	50.67	2.4%	51.66	2.4%	48.00	2.2%
		400.89	18.6%	399.09	18.5%	396.23	18.4%	382.83	17.7%
平面的 みどり	田畑	106.3	4.9%	95.93	4.5%	88.56	4.1%	80.64	3.7%
	草地	208.39	9.7%	193.96	9.0%	183.59	8.5%	187.63	8.7%
	314.69	14.6%	289.89	13.5%	272.15	12.6%	268.27	12.4%	
屋上緑化	-	-	-	-	1.60	0.1%	1.80	0.1%	
	715.58	33.2%	688.96	32.0%	669.98	31.0%	652.90	30.3%	
水面（水辺を含む）	98.77	4.6%	86.15	4.0%	64.15	3.0%	52.62	2.4%	
公園区域内	裸地				9.59	0.5%	9.67	0.4%	
	人工被覆面				21.70	1.0%	21.02	1.0%	
	814.35	37.8%	775.11	36.0%	765.43	35.5%	736.21	34.1%	

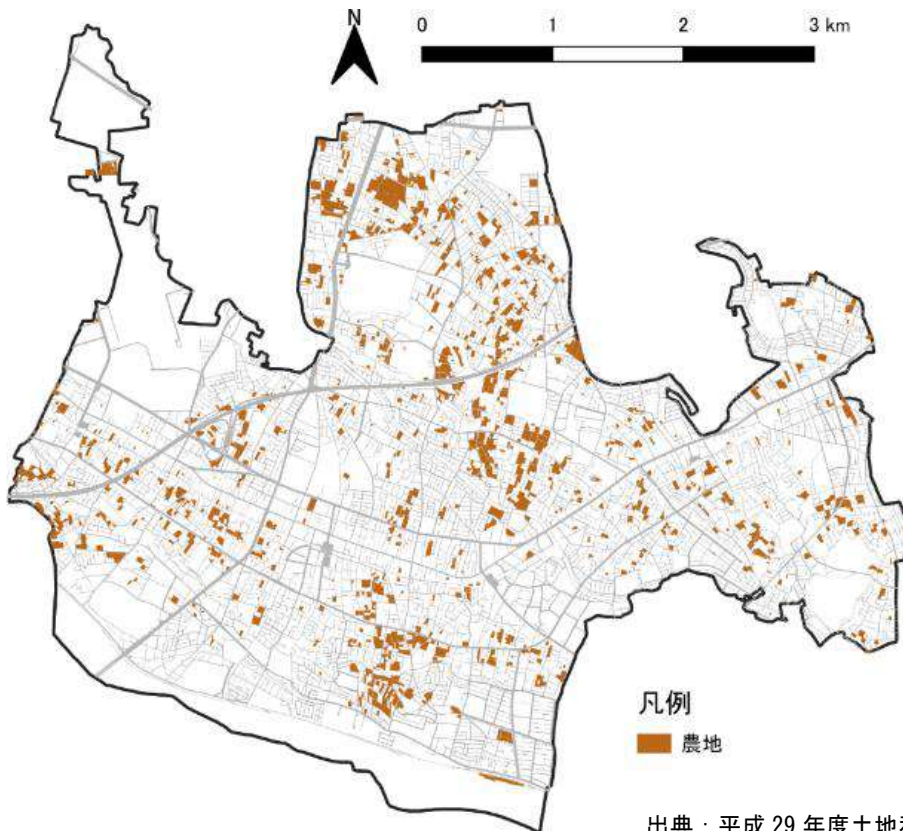
※合計数値が合わないものは端数処理によるもの

緑被地の面積と緑被率の変遷



出典：調布市緑に関する実態調査結果（令和元年度）

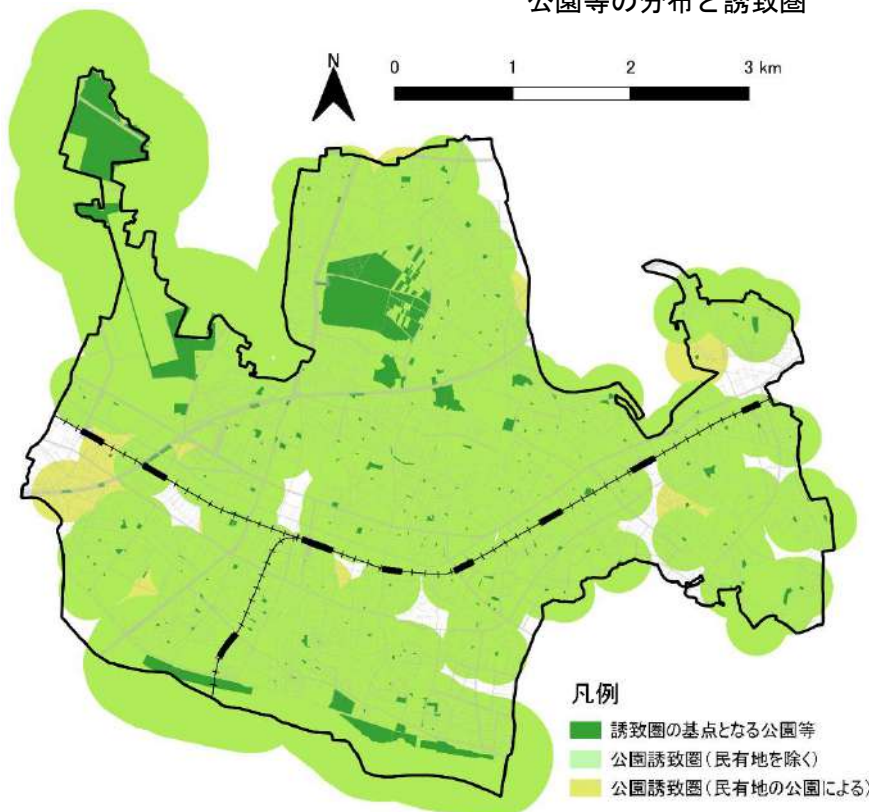
農地の分布図



公園・遊び場に対する満足度

令和2年4月1日時点で、市内で供用済の公遊園は231箇所あり、北部・西部に都立公園があるほかは、多摩川沿いに運動ができる公園や緑地が分布しています。市民アンケート結果では、公園に対する市民満足度は低く、特に「質」に関する満足度が低くなっています。

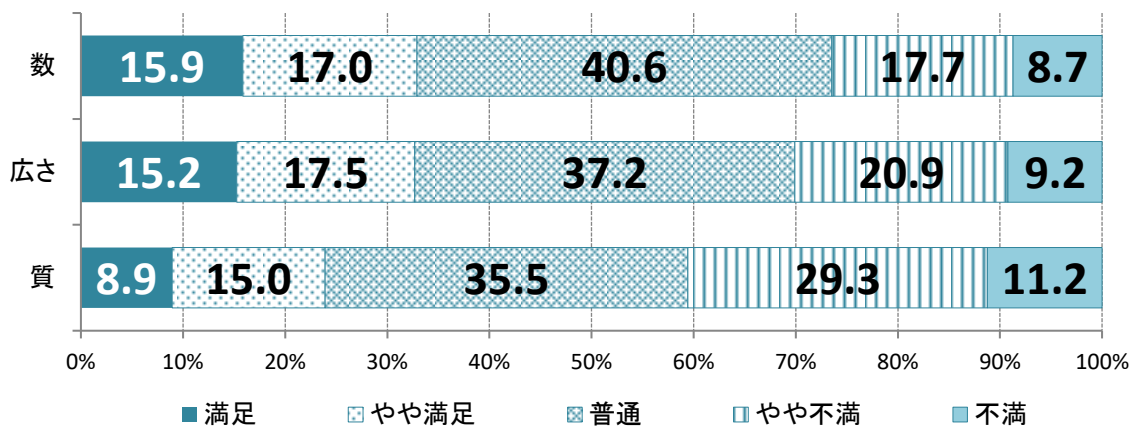
公園等の分布と誘致圏



※対象は原則として公園・児童遊園・仲よし広場とし、緑地のうち多摩川自然観察緑地については、規模や河川敷として一体的な利用が考えられることから対象とした。

※誘致圏の設定は以下の通り。
 面積2ha以上の公園
 … 公園の外周から500m
 面積2ha未満の公園
 … 公園の外周から250m

公園に対する満足度



数：N=1,009，広さ：N=997，質：N=996

出典：調布市の緑に関する市民アンケート調査結果（令和元年度）

市民の高齢化・緑の未来の担い手不足

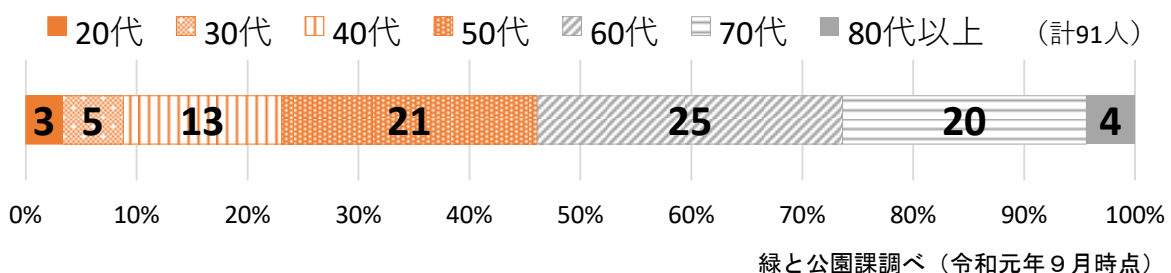
本市には緑の保全に関わる活動を行っている団体がありますが、メンバーの高齢化が進んでいる団体もあります。既存の団体等と連携し、多世代の協働により、持続可能な緑の保全活動を推進するため、次世代の育成が必要です。

緑の保全に関わる主な市民団体

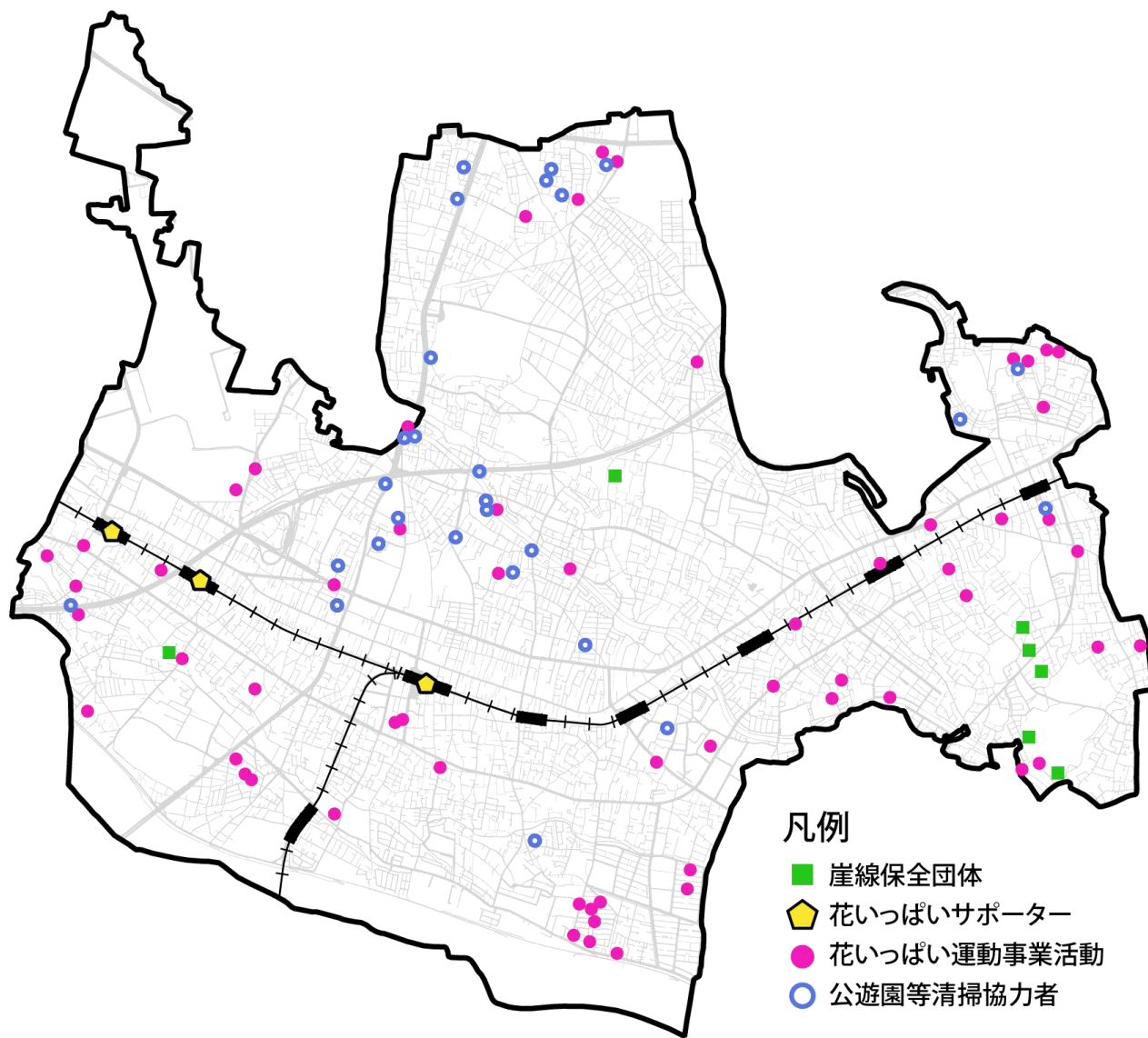
	名称	概要
1.	崖線保全団体	崖線保全を行う団体が7団体あり、約100人が活動しています（令和2年10月時点）。活動団体は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・入間町1丁目 「入間・樹林の会」 ・深大寺南町2丁目 「カニ山の会」 ・上石原3丁目 「凸凹森の会」 ・若葉町3丁目 「若葉の森3・1会」 ・若葉町3丁目 「若葉緑地の会」 ・入間町2丁目 「緑につつまれた街づくりの会」 ・入間町2丁目 「入間町2丁目緑地の会」
2.	花いっぱい運動事業活動団体	市内の公共施設の敷地内の空間地等で草花を育て、地域の緑を豊かにする活動です。申請に基づき、活動団体に経費の一部を市から補助しています。令和元年度は、72団体が登録し、50グループに補助を行いました。
3.	花いっぱいサポーター	平成30年度、令和元年度に市で主催している「花いっぱいサポーター養成講座」の受講生(花いっぱいサポーター)が土づくりや育て方を基礎から学び花苗を植え、花壇等を作っています。主に飛田給駅・西調布駅・調布駅周辺の花苗の植え替えや水やりなどの維持管理を行っています。
4.	公遊園等清掃協力者	市内の公遊園等を衛生的に維持するため、地域の団体（自治会・子ども会等）に協力を依頼しているものです。令和元年度は25箇所において20団体が活動しました。
5.	雑木林連絡会	市の緑施策の情報交換・保全活動時の安全講習などを実施しています。令和元年度は5つの崖線保全団体が参加し、年2～3回開催しました。

※その他、都市公園（神代植物公園、野川公園）においても、ボランティアが活動しています。

崖線保全団体の年齢構成

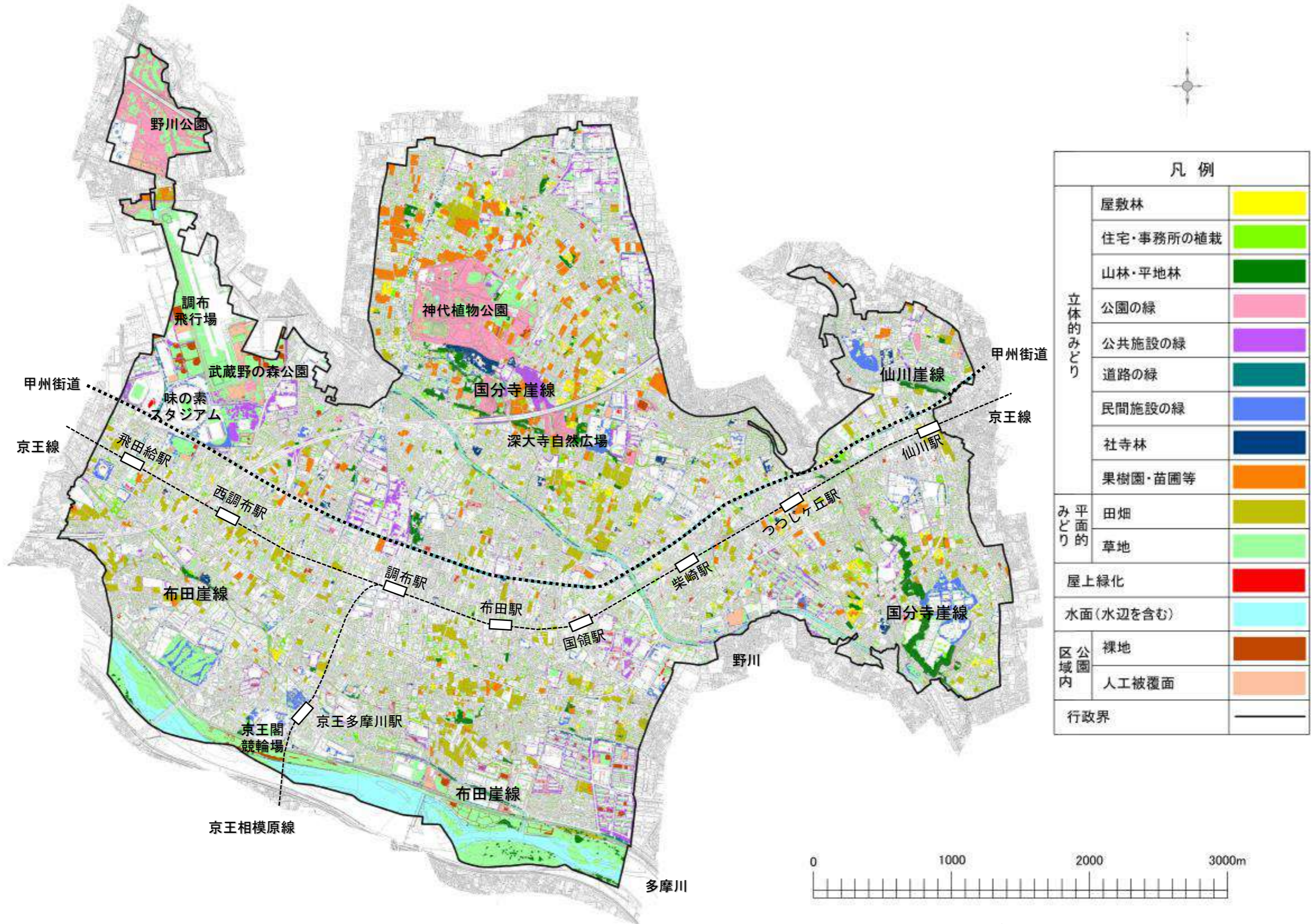


緑の保全に関わる主な市民団体の活動場所



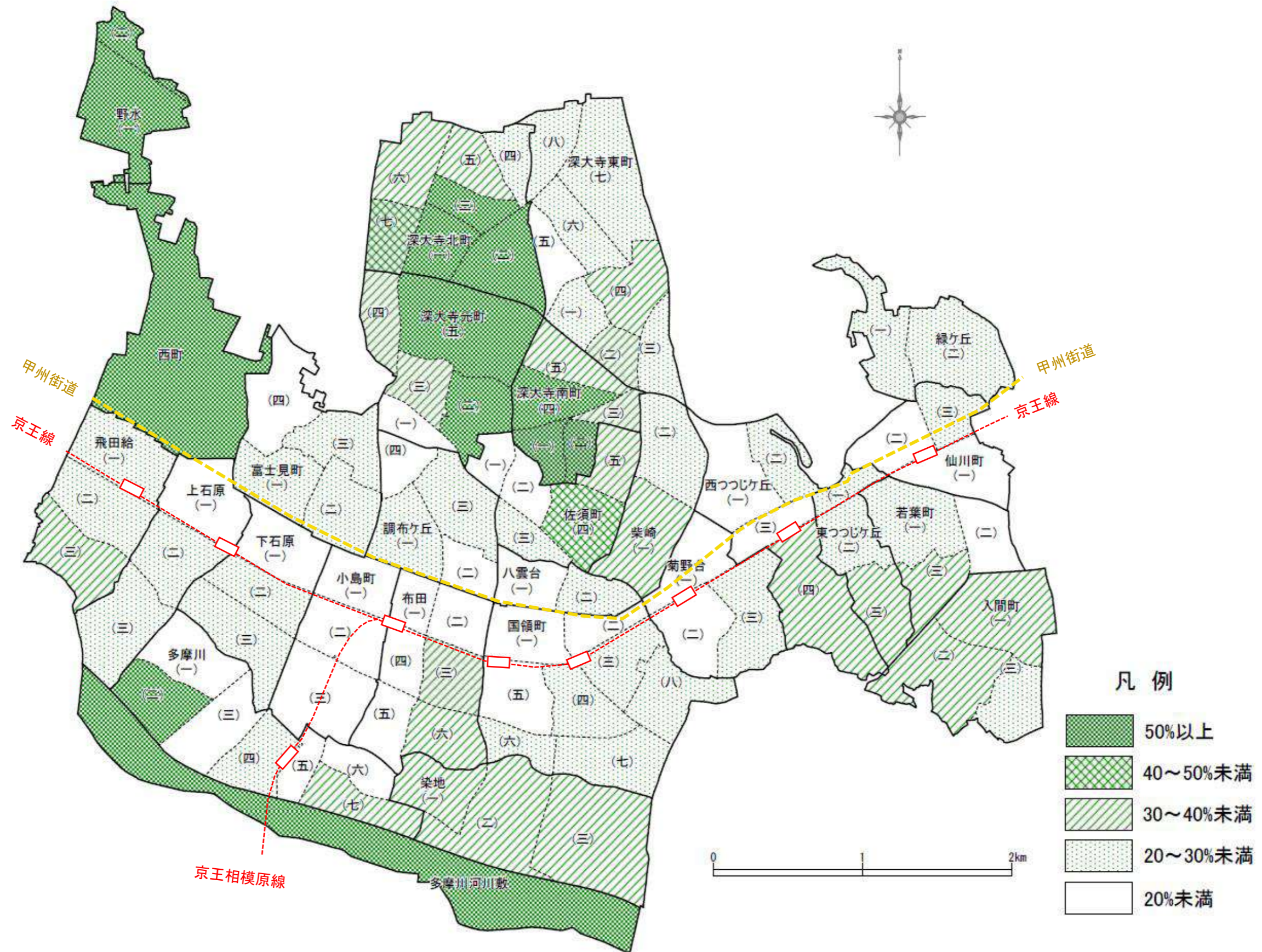
緑と公園課調べ（令和元年末時点）

< 調布市の緑の分布(みどり率集計対象地) >



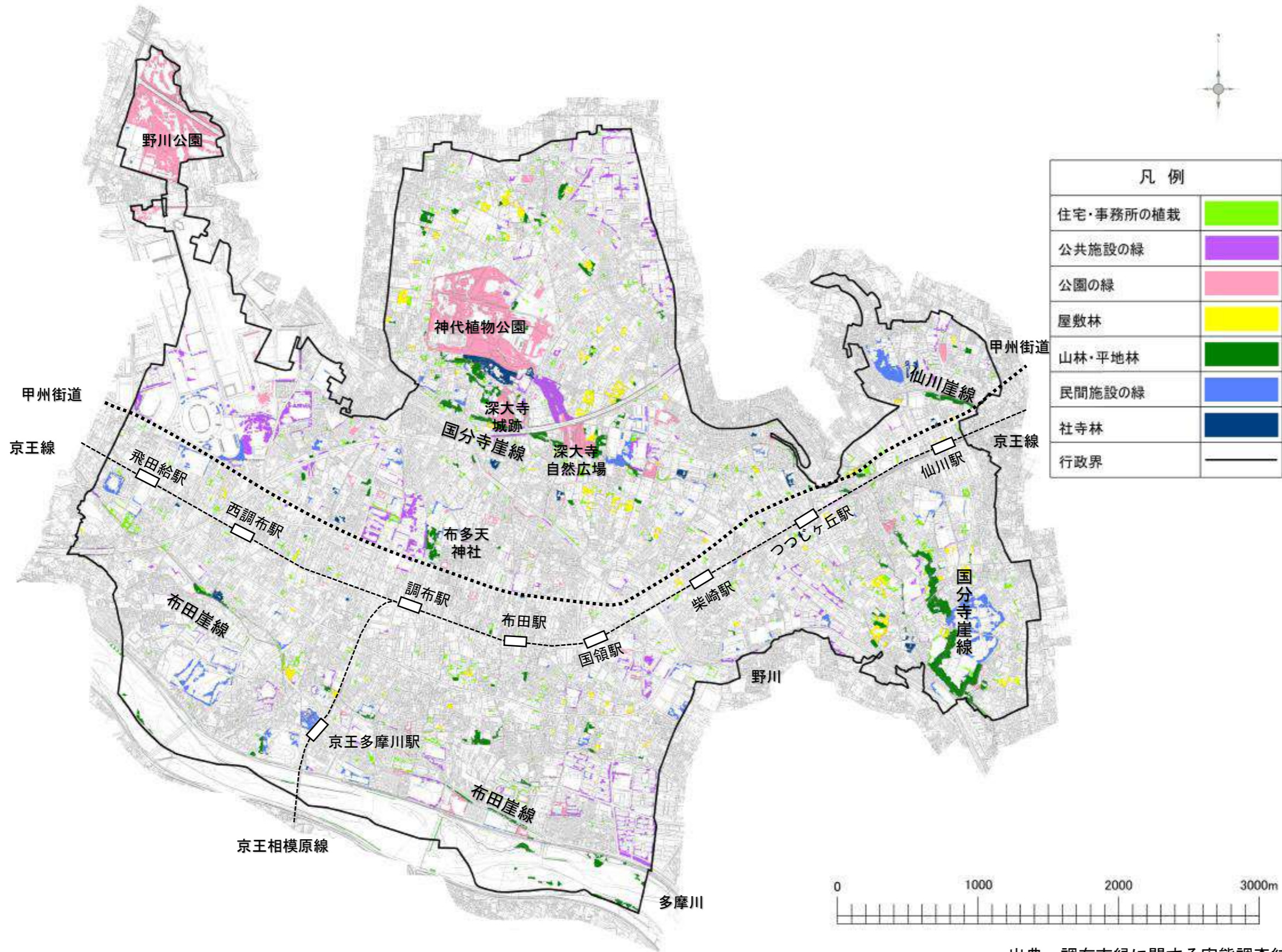
出典：調布市緑に関する実態調査結果（令和元年度）

< 町丁目別のみどり率 >



出典：調布市緑に関する実態調査結果（令和元年度）

< 300 m²以上のまとまりのある樹林地の分布状況 >



出典：調布市緑に関する実態調査結果（令和元年度）

4-4 課題のまとめ

課題① 緑の質の向上

人口増加とそれに伴う宅地開発が進む中、みどり率や市民一人当たり公園整備面積といった緑に関する指標値を上げることは容易ではないため、今後は、更なる量の増加ではなく、総量は維持しつつ「質の向上」を目指すことが現実的です。市民意向を汲み取り、ニーズに沿った緑の保全・創出・育成をしながら、緑の総量を維持しつつ、市民生活やまちづくり、生態系の保全等に寄与する緑の多様な機能を発揮することが必要です。

課題② 崖線樹林地や都市農地などの緑の保全

多摩川や野川、湧水などの水環境、市内の3つの崖線樹林地、武蔵野の面影を感じさせる農地の保全は必要であるにもかかわらず減少傾向です。とくに農地の減少は著しいですが、アンケート結果でも「できるだけ農地を残すべき」と「ある程度の農地を残すべき」と回答した割合が合わせて9割弱となっており、市民意向としても農地の保全は喫緊の課題です。

課題③ 民有地における緑化の推進

住宅・事務所等の植栽や民間施設の緑など、民有地の緑が減少していることがうかがえます。開発と保全のバランスにより、民有地における緑化の推進が必要です。

課題④ 参加と協働による緑のまちづくり

保全・創出された緑に対し、維持するための担い手の育成が必要です。アンケート結果では「自宅でのガーデニングや緑化」以外の活動に参加している割合は少ないですが、今後参加したい活動に関する質問ではほとんどの項目で「活動したい」割合が増えていることから、緑の潜在的な担い手は多く存在すると考えられ、市民参加のための仕組みづくりや、意識醸成を図り市民・事業者・行政が一体となった緑のまちづくりの推進が求められます。